



鬼怒川小の松風

第2号

平成25年5月14日

日光市立鬼怒川小学校長 武田 朋典

安全な生活を願って



早いもので1学期が始まってから約1ヶ月が経ちました。各学年では生活や学習や学校行事に意欲的に取り組む様子が随所に見られています。

このような中、本校では安全に関する行事をふたつ実施しました。5月2日実施の交通安全・防犯教室と、8日実施の地震から火災発生時における避難訓練です。

ふたつの行事を通して児童たちに身につけてほしいことは、「かけがえのない自分の命は、自分でしっかり守る」ということです。安全や安心は人任せではいけないと思います。車が気をつけてくれるだろうとか、声を出せば誰かが助けてくれるだろうでは、安全で安心な生活を守ることはできません。地震や火災発生時に子どもだけで近くに大人がいないことも考えられます。

ですから、鬼怒川小学校のすべての児童には「かけがえのない自分の命は、自分でしっかり守る」という気持ちを身につけてほしいのです。

そのために、朝の登校指導時や授業をとおして、正しい横断の仕方や不審者への対処方法さらに、災害時の適切な避難方法などの正しい知識を、身につけさせる指導をします。繰り返し指導して、できたら大いに認めることで、習慣として定着をさせます。このようなことをひとつひとつ積み上げて「かけがえのない自分の命は、自分でしっかり守る」という意識を身につけさせようと思えます。ご家庭でも折にふれて安全意識の高揚を図るような話題で、話し合っただけのようお願いします。



しっかり手を挙げ左右確認！



落ち着いて避難

学校教育目標

- 自分から本気で学ぶ子
- 心豊かで思いやりのある子
- 元気で最後までやりぬく子



○交通指導員さんの話から

5月2日(火)にあった交通安全・防犯教室の際に交通指導員さんから、下のような話がありました。「横断歩道で待っている時に車が止まってくれたら、横断した後にあいさつがきちんとできるいいですね。お礼の気持ちと、あいさつを届けることで皆さんとドライバーとの心が通じあいます。」

以前、別の小学校へ勤めている時、通勤途上にA小学校がありました。学校の前には信号機のない横断歩道があります。一列になった登校班が班長を中心に整然と横断します。その後です、横断の済んだ小学生たちはきちんと一列になり、かぶっていた帽子を取ってあいさつ(お礼)をしてくれました。何ともすがすがしい思いが残り、1日気持ちよく勤めることができました。

何度かこのような経験を重ねると、「今日も小学生たちに会えないかな。止まってあげてあいさつをされてみたい」と思うようになりました。このように好印象を抱く小学生たちには、車に気をつけて登下校してねと思う気持ちが湧いてきます。交通安全は交通ルールにだけ支えられているのではなく、ドライバーと歩行者のつながりによっても支えられていることがよく分かりました。

多くの人によって構成されている社会ですから、一人ひとりの結びつきが強いほど住みやすい社会になると思います。交通ルールの勉強とともに何か大切な事を思い出させてくれたような気がします。

お知らせ

○読み聞かせボランティア「歩絵夢」より

現在、朝の時間帯に学校で子どもたちに絵本の読み聞かせをしています。

読み聞かせをとおした子どもたちとの交流は、様々な発見ができる楽しいひとときです。決して難しいことはありませんので、興味のある方連絡をお待ちしています。

問い合わせ・連絡先

鬼怒川小学校(関) 76-1204

学校経営の方針

「生きる力」

(確かな学力、豊かな心、健康な体) を身につけた
児童を育てます

児童第一
よい教師をめざします

個に応じた
教育を進めます

家庭や地域と手を携え
学校作りを進めます



上記の方針を実現するために以下のような努力点と具体策を考えました。

確かな学力

- ・わかる授業の実施
- ・言語活動の充実
- ・T・Tによる個に応じた指導の実施
- ・目標や夢の追求

豊かな心

- ・児童指導の充実
- ・道徳の授業の充実
- ・学びに向かう集団作り
- ・自己有用感の醸成

健康な体

- ・体育授業の充実
- ・外遊びの奨励
- ・安全指導の充実
- ・保健指導の徹底
- ・食育の充実

よりよい教職員

- ・研究授業をととした指導法の改善
- ・働き甲斐のある職場作り

特別支援教育の充実

- ・個人にあった指導法の追究
- ・児童への支援体制づくり

手を携えた学校づくり

- ・学習ボランティアの導入
- ・幼稚園・保育園・中学校との連携推進
- ・懇談会の充実
- ・情報発信



- これらのことを積み上げることで、
- ・自分から本気で学ぶ
 - ・心豊かで思いやりのある子
 - ・元気で最後までやりぬく子
- 学校目標で示した児童に育てていきます。
皆様方と手を携えて進んでいきたいと思ひます。
ご理解・ご協力よろしくお願ひします。

お耳を拝借

No.2

自己有用感 (じこゆうようかん)

自己有用感を構成する要素として、

- ① 自分は価値のある存在だという実感。
(存在感)
- ② 自分は役に立つ行動をしているという状況。
(貢献)
- ③ 自分の行動や存在が認められているという状況。
(承認)

この三つの要素があります。自己有用感を高めることで、子どもたちは友だちや学級との関係の中で、自分に自信をもっていきいきと生活ができるようになります。本校でも、さまざまな行事をすることで自己有用感を高める取り組みを行っています。

下の写真は4月30日(火)に実施した全校レクの様子です。遊びをとおして全校へと仲よしの輪を広げるために、集会委員会を中心に企画してくれました。



アクションゲーム「猛獣狩り」

6年生たちのリードで順調に進めることができました。



じゃんけんピラミッド
次々とじゃんけんをしていき、勝ち抜けた人の数を競います。

事前の準備をしっかりとできたことと、1年生から6年生までみんなが楽しめるように内容を工夫してくれたことで、楽しい時間を過ごすことができました。自分たちの努力が実を結んだ、言葉を換えると役に立ったことにもなります。

集会委員会の児童は自分たちの行動が、全体に貢献し、周囲の児童や先生たちからがんばりを認められ、ひいては存在感を十分に実感することができたことと思ひます。このようなことを積み重ね、児童一人ひとりの自己有用感を高めていきます。

